

第2回トラック輸送における取引環境・労働時間改善徳島県地方協議会議事概要

1. 日 時

平成27年12月2日（水）13：30～15：30

2. 場 所

徳島通運（株）鳴門支店会議室

3. 議事概要

- (1) 「トラック輸送事業における長時間労働の実態調査（概要）について」について事務局より説明を行い、意見交換を行った。
- (2) 「長時間労働の改善に向けた取組事例」について事務局より説明を行い、意見交換を行った。
- (3) 「徳島県の現状について」について事務局より説明を行い、意見交換を行った。
- (4) 各委員からは、以下のような発言があった。

【トラック輸送事業における長時間労働の実態調査（概要）について】

○実態調査24社のうち23社、ドライバーについては120名のうち103名の方からご協力をいただきました。

【長時間労働の改善に向けた取組事例】

○運転者を募集しても、給与面を比べられると人材は来ない。賃金の底上げが必要だが、費用が膨大になり、賄える運賃が必要となる。

【徳島県の現状について】

○車両費、燃料代、安全管理機器の導入など、年々コストが増えているにも関わらず運賃は10年前と変わらない。

○荷物のある時、ない時の山が大きく平準化が難しい。

○労働時間がテーマであるが、適正な運賃収受ができなければ難しい。お金があれば人も増やせる。

○それぞれが自助努力でコスト削減をしている中で労働時間改善を如何にやるか、荷主と運送事業者相互の意思疎通が大事である。協会の方から運賃に対しての働きかけはできないのか。

- バス・タクシーは認可運賃であり、貰わないといけない。トラックでも最低運賃（基準運賃）を示してほしい。
- 運転者は時間外も生活給であり、モーダルシフトにすると給与が減ることになる。
- 労働時間の問題、運賃の問題もいずれもトラック事業者だけでは解決は難しく荷主さんの協力が必要である。
- 労働集約型産業であり人を増やさないと仕事ができない。昔は運転者の給料は高かった。荷主と運送事業者の数のバランスが規制緩和により崩れたのが問題。
- 乳業メーカー4社の商品を扱っているが、パレットの規格がばらばら。全てのメーカーのパレットが統一されていれば作業が効率化できる。
- 労働時間を減らすことが眼目であるが、残業代が生活費になっている現状を少し切り崩していかないと解決しない問題。

以 上